



施政方針演説をする前田市長

令和6年度

枕崎市 施政方針

令和6年度枕崎市議会第1回定例会が3月1日招集され、前田祝成市長が令和6年度の市政運営についての施政方針演説を行いました。その一部を抜粋して紹介します。

令和6年3月議会の開会に当たり、市政運営の所信と基本方針についてご説明し、市議会ならびに市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

経済の現状と本市の少子化対策

昨年5月、新型コロナウイルスの感染症分類が五類になり、社会経済活動が確実に動き出しています。経済活動が活発に動き出したと同時に、さまざまなモノの価格が上がってきています。昨年は、本市でも多くの産業において厳しい経営環境に置かれた状況が見られました。しかし、

今の経済状況は、経済の好循環に向けての段階的な経済状況であり、本市経済にとっても大切な局面を迎え、今年がそのような重要な一年になると認識しています。

国内全体では、経済に明るい兆しが見えつつある一方で、地方は加速する人口減少、少子高齢化という大きな課題が一層大きくなっています。そのような中、本市の少子化の実態は、ここ数年の出生数が減少の一途をたどっています。少子化の根本的な原因は、経済、そして特に若年層の東京一極集中による出生率低下にあり、地域の自治体間で人口の奪い合いをしているような場合ではなく、少

子化対策を実効性のあるものにするためには、いかに地方において若者の雇用と所得を創出していかかということが重要な課題となっております。

本市としては、経済においてしっかりとした軸を作り、若者が定住し、特に若い世代が暮らしを成り立たせることができる経済環境を構築することが重要だと考えます。新年度施策においても、枕崎漁港を中心とした水産業や水産加工業、その他製造業、農業といった本市の強みを更に強化していく経済関連施策を着実に実行し、少子化対策に資する取り組みとしてまいります。

ふるさと納税業務の担当係を新設

昨年、令和4年度のふるさと納税寄附額がその前年から半減したことで、多くの市民の皆さまにご心配をおかけすることになりました。本年度は運営委託事業者の公募を行いました。計画していた日程での事業者選定には至らず、これまで業務委託してきた中間管理業務を企画調整課で行い、その後、10月末から既存のポータルサイト運営事業者とそれらの業務の委託契約を行いました。本年度の寄附額としては、1月末時点で約11億円のご寄附をいた

だいております。ご厚意をお寄せいただいた皆さまに心から感謝いたします。新年度は企画調整課にふるさと納税業務を担当する係を新たに設置します。今後とも、返礼品協力事業者、そして昨年設置された連絡協議会と連携しながら、新たな推進体制の下、事業の拡大強化に努めてまいります。

ごみ処理施設の変移と下水道使用料の改定

この数年、私たちに大きな影を落としてきた新型コロナウイルス感染症が一定の収束を見た現在、改めて市民の「暮らし」にこだわり、これからの「暮らし」についてしつ

りと向き合っていく必要があります。南薩地区衛生管理組合の「なんさつECOの杜」の供用開始に伴い、市民の利便性を維持するため、家庭から出る粗大ごみなどを市民が直接持ち込むことができる中継施設の機能と、内鍋清掃センターのストックヤードを活用した資源ごみの中間処理を行うマテリアリサイクル推進施設の機能を持つ「内鍋リサイクルセンター」を本年9月から稼働します。

担していただけに、水質料金を含む使用料を改定いたします。今後も市民の生活環境向上へ向け、下水道汚泥の有効活用への取り組みや施設の更新など一層推進してまいりますので、市民、事業者の皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

災害への備えと景観に配慮した環境整備

本年1月1日に発生した能登半島地震でも明らかとなった半島先端部のインフラの脆弱性、道路網や漁港について、関係課を中心にその強靱性を確認（再点検）することとしています。本市は平成5年に発生した豪雨災害以降、災害に強いまちづくりを推進してまいりましたが、近年の激甚化、頻発化する自然災害等に備え、今後進行中の土木事業の確実な事業実施と急傾斜地崩壊対策事業や浸水対策事業など必要な事業の可能な限り早期の実施に取り組んでまいります。

また、県下でもいち早く取り組んできた公共下水道事業については、施設の老朽化対策、汚泥処理費用の増大などの課題を抱えています。一昨年から市民への広報啓発や事業者との協議を進め、本年4月徴収分から、事業者を負



地域の道路整備については、期成会等で要望を続けている地域高規格道路南薩縦貫道の機能強化に取り組んでまいります。また、市民から声の上がつている自動車専用道路の要望に

ついて、薩摩半島横断道路など南薩地域の道路整備計画等の進捗状況や更に広域の道路網の整備状況等を俯瞰するなど検討して、その可能性、有用性を研究してまいります。



地域公共交通の将来像を検討

昨年11月、JR九州から「JR指宿枕崎線の指宿枕崎間の

路線について県や沿線の自治体と将来の地域公共交通のあり方を議論したい」との発言がありました。これについては、JR九州としては存続か廃止かの前提を置かず、未来志向での議論を進めたいとのことであり、1月から事務レベルの勉強会を開催しています。本市としても、沿線市や県と情報を共有し、利用促進を含む路線の活性化に向けて前向きに取り組む考えです。



JRを含む地域公共交通については、一昨年策定した枕崎地域公共交通計画を基に、活性化協議会での議論、市民の意見も踏まえながら、あるべき将来像を描いていくこととします。昨年廃止となった金山道野線のバス路線の代替として、乗合タクシーによる実

証運行を行っておりますが、他の地域での施策についても具体化に向け、検討していきます。また、新年度は交通弱者対策事業のタクシー運賃助成の拡大を行います。

結びに

昨年も申し上げましたが、コロナ禍以降、市民と社会を取り巻く不確実性や変化の速度と複雑さの増大、これらの状況を新しい日常と捉えて、機敏に変化に対応していくことが求められています。私が先頭に立ち、職員力を総動員して新年度の取組を進めてまいります。

施政方針をホームページで公開

施政方針の全文は、市ホームページに掲載しています。

掲載ページ
【市長の部屋⇒施政方針⇒令和6年度施政方針】



▲施政方針全文